包装タイムス　2025年(令和7年)7月14日　に掲載されました

談話室

北原産業は、総合食品容器メーカーとして市場ニーズにあった新製品の開発を続け信頼性を高めている。代表取締役の北原忠氏に現状と展望を聞いた。

北原産業
代表取締役
北原忠氏

市場に求められる製品開発

多用途テイクアウト容器を展開

当社は、プラスチックから紙素材まで幅広い素材を扱い、企画・開発から生産、販売まで一貫して手掛ける総合食品容器メーカーです。迅速な商品展開と柔軟な対応力を武器に、常に市場の動向を見据えながら顧客のニーズに応える製品をスピード感を持って提案しています。

近年、社会情勢の不安定化により先行きが見通しづらい状況が続いており、物価高の影響によって消費者の購買意欲が冷え込み、食品関連市場では販売数量の伸び悩みが見られます。容器業界においても、各社に一層の努力と工夫が求められているところです。当社としましては、見通しの立てづらい時勢の中でこそ、求められるものを必要なときに届けるという姿勢を貫く所存です。社会に対する責任を果たし、市場に貢献できる企業であり続けたいと考えています。

この数年で事業環境も変化しています。当社でも営業手法の模索を続けており、展示会での製品訴求に加え、「インスタグラム」などのSNSを活用した情報発信を活発化。反響も大きく、サンプル出荷の依頼が増加しています。また、慢性的な人手不足への対応として、外国人労働者の受け入れも視野に入れた職場環境の改革にも取り組んでいます。

最近では、テイクアウト市場の多様化が進んでいるようです。当社としては、多用途に活用できる容器のラインアップを強化しています。おにぎり型容器「OMSシリーズ」は、手を汚さずに片手で食べられる機能性が特徴です。新たに小型タイプや幅広タイプも追加し、具材や用途に応じて選択の幅を広げており、サンドイッチやケーキなどへの活用も想定しています。日本食人気の高まりを受け、欧米市場も視野に入れ海外展開にも注力する考えです。

たこ焼き用容器の「たこふね」シリーズは、サイズとカラーのバリエーションを豊富に用意しています。特に新色の「モカ」は、焼きそばや唐揚げ、スイーツなど幅広いメニューに対応可能です。使いやすい形状で、キッチンカーや屋台などでの活用も期待されます。

当社では現在、開発力を基軸に素材や機能性に優れた容器の創出を加速させ、年末にかけてはさらなる新製品の投入も予定しています。今後も、市場のニーズを的確に捉え、新たな需要の創出につなげる製品開発に注力してまいります。